

麻しん（はしか）患者の集団発生について

令和8年4月9日（木曜日）に、都内で麻しん患者（検査診断例）の発生がありました。

管轄保健所において疫学調査を実施し、複数の有症状者が確認され、検査の結果、複数の方が麻しんと診断されました。現在、管轄保健所において接触者の健康観察を実施しています。

麻しんは感染力が強く、昨年からの国内での報告数が増加しており、海外渡航歴のない場合も感染が確認されています。麻しんに対する免疫を持っていない人が、感染している人に接すると、ほぼ100%の人が感染します。

体調が悪い場合、特に発熱している方は外出、移動、人に会うことを控え、自宅等で療養してください。

麻しんを疑う症状があり医療機関を受診する際は、必ず事前に受診先医療機関にご連絡いただき、公共交通機関の利用を控えて、医療機関の指示に従って受診してください。

1 発生状況及び概要

- | | |
|-------------|--------------|
| (1) 施設概要 | 新宿区内の小学校 |
| (2) 患者数 | 児童・教職員18人 |
| (3) 年代 | 10代、40代 |
| (4) 主な症状 | 発熱、発しん等 |
| (5) 海外渡航歴 | なし |
| (6) ワクチン接種歴 | 1回以下2人、2回16人 |

2 対応状況

- ・現在、管轄保健所は関係機関と連携し、接触者への連絡、健康観察、有症状者に対する検査等を進めるなど、必要な感染拡大防止策を講じています。
- ・当該学校では、学年閉鎖等の対応を実施しています。

3 その他

本情報提供は、次頁以降の感染拡大防止に関する情報提供と注意喚起のために行うものです。報道機関各位におかれましては、患者、患者家族及び関係者等の個人情報、関係する事業所の情報について、人権への配慮及び、プライバシー保護の観点から、本人等が特定されないよう、格段の御配慮をお願いいたします。

＜都民の皆様へ＞

- 麻疹は感染力がきわめて強い感染症で、典型的には、感染すると約10～12日の潜伏期間の後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れ、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。発症前日から周囲への感染力が生じると言われています。
- **麻疹は予防接種で防げる病気であり、ワクチン接種は個人でできる有効な予防方法です。**
麻疹の定期予防接種（第1期：1歳児、第2期：小学校就学前の1年間）をまだ受けていない方は、かかりつけ医に相談し、早めに予防接種を受けましょう。
手洗いやマスクだけでは、麻疹を予防することはできません。
ワクチン接種によって体に免疫の備えができていると、ウイルスを早期に抑えこむことで、発症を防いだり（発症予防）、麻疹にかかったとしても症状が軽く、発熱等の症状の強さ、肺炎や脳炎といった重い合併症のリスクを下げたり（重症化予防）することができます。
- 麻疹は昨年から国内での報告数が増加しており、海外渡航歴のない場合も感染が確認されています。体調が悪い場合、特に発熱している方は外出、移動、人に会うことを控え、自宅等で療養してください。
- 海外に渡航し、帰国後3週間以内に発熱や発疹などの麻疹を疑う症状がある場合は、かかりつけ医または医療機関にまず電話で相談してください。受診の際は、必ず事前に受診先医療機関に海外渡航歴及び麻疹の疑いがあることを連絡の上、公共交通機関の利用を控えて、医療機関の指示に従って受診してください。

（麻疹に関する基礎知識や予防接種及び相談について、詳細はこちら➡）



（参考）厚生労働省リーフレット：「麻疹（はしか）」は世界で流行している感染症です。

【出国前】

海外へ渡航される方へ

「麻疹（はしか）」は世界で流行している感染症です。

麻疹罹患率上位10の国々	麻疹罹患率
インド	96.9
ブルキナファソ	21.428
インドネシア	16.744
インド	9.609
パキスタン	7.961
フィリピン	6.933
インドネシア	2.167
日本	2.045
ナイジェリア	2.029
アフガニスタン	2.000
モルディブ	2.551

日本国内で発生された麻疹の罹患率地域別

海外へ行く前に

- ✓ 麻疹の予防接種歴を母子手帳などで確認しましょう
- ✓ 定期接種を受けていない方は、接種を検討してください

厚生労働省

【帰国後】

海外から帰国された方へ

帰国後2週間程度は
麻疹 発症の可能性を考慮し健康状態に注意してください。

麻疹罹患率上位10の国々	麻疹罹患率
インド	96.9
ブルキナファソ	21.428
インドネシア	16.744
インド	9.609
パキスタン	7.961
フィリピン	6.933
インドネシア	2.167
日本	2.045
ナイジェリア	2.029
アフガニスタン	2.000
モルディブ	2.551

日本国内で発生された麻疹の罹患率地域別

帰国後2週間程度は

- ✓ 高熱や全身の発しん、せき、鼻水、目の充血などの症状に注意しましょう

厚生労働省

【問合せ先】

- 患者発生に関すること
保健医療局感染症対策部防疫課防疫担当 電話 03-5320-4088
- 検査の技術的部分に関すること
東京都健康安全研究センター微生物部 電話 03-3363-3231

(参考) 麻疹 (はしか) とは

1 麻疹とは

麻疹は、麻疹ウイルスによる感染症であり、**感染症法上の五類感染症**です。

2015年に世界保健機関西太平洋事務局より日本は麻疹排除状態であると認定され、近年の国内における麻疹の発生は輸入症例を発端とするものです。

2 原因と感染経路

病原体は、麻疹ウイルスです。空気感染が主たる感染経路ですが、その他に、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる飛まつ感染、およびウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染も発生します。

発症した人が周囲に感染させる期間は、症状が出現する1日前から解熱後3日くらいまでとされています。なお、感染力が最も強いのは発疹出現前の期間です。

3 症状

感染力はきわめて強く、麻疹に対する免疫を持っていない人が、感染している人に接すると、ほぼ100%の人が感染します。感染しても発症しない不顕性感染はなく、感染した全例で発症します。典型的には、約10～12日間の潜伏期間の後、38℃程度の発熱及び風邪症状が2～4日続き、その後39℃以上の高熱とともに全身の発疹が出現します。主な症状は、発熱・発疹の他、咳、鼻水、目の充血などです。

また、合併症として、肺炎、中耳炎、稀に、脳炎、失明等があり、肺炎や脳炎は、重症化すると死亡することもあります。死亡する割合は、先進国で1,000人に1人とされています。一度感染して発症すると、ほぼ生涯にわたって免疫が持続すると言われています。

4 治療

特別な治療法は無く対症療法が行われます。感染初期であれば、緊急ワクチン・免疫グロブリンの投与により発症を防止できる可能性もあります。

5 予防のポイント

有効な予防法は、麻疹含有ワクチン接種です。接種することによって、95%程度の人がウイルスに対する免疫を獲得することができますと言われています。また、2回の接種を受けることでさらに多くの方が免疫を獲得することができます。

予防接種法に基づく定期予防接種が計2回（1回目：1歳～2歳未満 2回目：小学校入学前の1年間）行われていますので、対象者の方でまだ接種が済んでいない場合は早めの接種をお願いいたします。

令和6年度接種率 第1期（1歳児）：94.5%

第2期（小学校就学前の1年間）：90.4%

(参考) 都内における麻疹患者発生状況 (2026年の数値は随時更新)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年※
東京都	23	124	2	0	0	10	10	34	180
全国	279	744	10	6	6	28	45	265	299

※東京都の2026年は4月21日までの届出数（速報値）

※全国の2026年は第15週（2026年4月6日～4月12日）までの累積速報値